

国際文化学部国際文化学科 カリキュラムツリー

D P	C P	1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-2 多様な文化に関する基礎知識、およびその歴史的・思想的背景に関する幅広い教養を修得している。	A-2 大学での学修の前提となる基礎知識と教養を身につけるための文化論部門科目、学部での学修に共通する諸分野について理解を深めるための学部共通部門科目、および資格取得のための自由選択部門科目を1年次より配置する。	△文化コース基礎論 a △文化コース基礎論 b △文化コース基礎論 c △文化コース基礎論 d △文化コース基礎論 e △文化コース基礎論 f 文化のダイナミズム A 社会調査法 マクロ経済学 I	△文化コース基礎論 a △文化コース基礎論 b △文化コース基礎論 c △文化コース基礎論 d △文化コース基礎論 e △文化コース基礎論 f 文化のダイナミズム B 質的データ分析論 世界と日本の経済	現代哲学思想 A 世界史概論 A 日本史概論 A 中国史 A アメリカ史 A ヨーロッパ史 A 宗教学 A 文化社会学 A 文化創造論 A 人文地理学 A 地誌学 A 自然地理学 A 日本民俗学 A 漢文 A 考古学 A 古文書学 A ヨーロッパ・ケルト文化論 A 比較文化概論 A 社会調査技法 世界経済論 政治学原論 I	現代哲学思想 B 世界史概論 B 日本史概論 B 中国史 B アメリカ史 B ヨーロッパ史 B 宗教学 B 文化社会学 B 文化創造論 B 人文地理学 B 地誌学 B 自然地理学 B 日本民俗学 B 漢文 B 考古学 B 古文書学 B ヨーロッパ・ケルト文化論 B 比較文化概論 B 国際法 政治学原論 II	社会調査実習 A 社期調査実習 B			
A-3 文化事象について学術的に考察するための専門知識と方法論、および文献読解に必要な語学力を修得している。	A-3 系やコースでの学修に必要な専門知識と方法論を修得するために、情報処理に関する科目を1年次より、系・コース専攻部門科目を2年次より、そして高度な語学力を涵養するための専門外国語部門科目を3年次より、それぞれ配置する。	量的データ分析論 (基礎) 量的データ分析論 (応用) 統計解析論		日本文化史 A 日本文化論 A 日本文学論 A 東アジア文化交流論 A 日本社会論 A 中国・アジア文化史 A 東アジア思想 A 中国文学概論 A 中国民族文化論 A 東アジア文化論 A アメリカ・太平洋文化史 A アメリカ社会文化論 A ヨーロッパ・地中海文化史 A ヨーロッパ文学論 A ドイツ文化論 A 地中海都市文化論 A 地中海宗教文化論 A 比較文化論 A 現代思想文化論 A 比較社会文化論 A 文化人類学 A 比較言語文化論 A 表象文化史 A 表象文化論 A 表象メディア論 A 美学・芸術学 A 芸術文化史 A	日本文化史 B 日本文化論 B 日本文学論 B 東アジア文化交流論 B 日本社会論 B 中国・アジア文化史 B 東アジア思想 B 中国文学概論 B 中国民族文化論 B 東アジア文化論 B アメリカ・太平洋文化史 B アメリカ社会文化論 B ヨーロッパ・地中海文化史 B ヨーロッパ文学論 B ドイツ文化論 B 地中海都市文化論 B 地中海宗教文化論 B 比較文化論 B 現代思想文化論 B 比較社会文化論 B 文化人類学 B 比較言語文化論 B 表象文化史 B 表象文化論 B 表象メディア論 B 美学・芸術学 B 芸術文化史 B	アメリカ思想文化論 A アメリカ宗教文化論 A	アメリカ思想文化論 B アメリカ宗教文化論 B		
B-2 多様な媒体から信頼しうる情報を取捨選択して適切に活用できるメディア・リテラシー、および異文化理解のために必要な読解力を身につけている。	B-2 大学での学修の前提となる基本的なリテラシーと正確な読解力を修得するための演習・卒業論文部門科目 (基礎演習) を1年次に設置する。	◎基礎演習 A 海外語学学修 I	◎基礎演習 B 海外語学学修 II	国際政治学					
B-3 読書と議論を通じて自己の意見を柔軟に練り上げるための思考力と対話力、およびそれを明確かつ論理的に表現するための文章力と発言力を身につけている。	B-3 専門的研究に必要な思索と解釈の力を養い、その表現と発信の方法を実践的に学ぶための演習・卒業論文部門科目 (導入演習) を2年次に配置する。			◎導入演習 A	◎導入演習 B				
C-2 歴史と文化についての知識と思索を踏まえて研究課題を自ら設定し、主体的に考察することができる。	C-2 自己の問題意識に基づき研究を立案・遂行するプロセスを学ぶための演習・卒業論文部門科目 (専門演習) を3年次に、現地での学修や調査を通じて異文化を体得するための自由研究科目を1年次以降に、それぞれ配置する。					◎専門演習 A	◎専門演習 B		
C-3 現代社会における文化の役割を理解した上で、異文化間の相互交流と新たな文化の創造に寄与することができる。	C-3 学修と異文化体験の成果を学術論文へと創造的に昇華し、その今日の意義を探るための演習・卒業論文部門 (卒論演習および卒業論文) を4年次に配置する。							◎卒論演習 A	◎卒論演習 B ◎卒業論文
D-2 自己の価値観について客観的に反省できる批判精神、および他者の文化の多様性を理解し尊重できる寛容さを身につけている。	D-2 多様な文化を学ぶことを通じて自身のアイデンティティを常に問い直し、柔軟な世界観を養うための専攻科目 (全部門) を1年次より設置する。			全科目					
D-3 学術を単なる手段とみなすことなく、文化を学ぶこと自体に喜びを見出し、その愉悅を他の人々と共有することができる。	D-3 教員による研究成果を教育現場へとフィードバックし、学生の知的好奇心と探究心を刺激し鼓舞するための専攻科目 (全部門) を1年次より設置する。			全科目					

※◎は必修科目、△は選択必修科目を表す。